
ここに空がある限り

宇治崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ここに空がある限り

【Nコード】

N8167S

【作者名】

宇治崎

【あらすじ】

世界でたった一人の人になっていた。

いつからだろう。僕はこの世界でただ一人の人間になっていた。

気がついたときには当たり前のようにあっただけの大きなビルや住宅街が消え去り、青々とした草木が何処までも広がり続けて青く澄んだ空へと続く景色に変わった。

そうそう、つい先ほどのことだったんだ。本当にちょっと前のこと。学校から友達と帰る途中、何気ない会話をしていたのだけれどいきなり途絶えた。それから特に気にせず歩いている、筈だったんだ。

まあでも、過ぎたことは仕方がない。僕は大きく深呼吸をする。こんなに美味しい空気は吸ったことが無いから。けれど少し、街の排ガスを含んだ空気が恋しくなった気もする。その中で生まれ育ったのだからね。ここはあまりにも綺麗で未知の世界だ。空気も景色も。

何だかお腹が空いたので近くの森に入る。木々が覆い茂り鳥のさえずり声が微かに聞こえた。動物はいるようだ。人間だっているかもしれない。中へ進んでいくと木には色とりどりの果物が実り、甘い匂いで誘っている。そう、誘われていると感じたから何だか食べるのは気が引けてしまって、悩んでいる内に辺りは暗闇に包まれようとしていた。街灯も無いので、自分の姿もよく分からない状態になるのは分かりきったことだ。歩くのは気が進まないから、今日はこの場で留まることにする。

草むらに寝転びながら空を仰いでいると、そう時間が掛からないうちに周りは暗闇で包まれたが僕が想像していたものとは違った。

見たこともない驚くほどの無限の星々が明かりを灯しながら浮かび上がっていた。その光景に、僕は悟らざる終えなかった。

「そうか、みんな死んじゃったんだ」

昔、人は死んだら星になるって聞いた。ずっと嘘だっと思ってきたけれど、本当だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8167s/>

ここに空がある限り

2011年10月6日07時53分発行